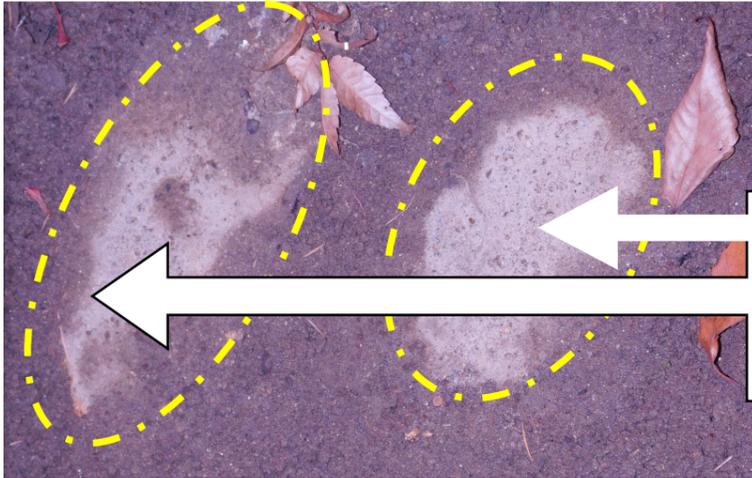


② 舞茸菌木の発生時期までの管理方法

－ 舞茸菌木を伏込み(埋め込み)後、舞茸の発生時期以外(入梅前、夏場など)にも

定期的に、伏込み場所を見回して下さい。－

1. 雨などにより菌木上にかぶせた土が流されて菌木の頭が見えている場合は、盛り土をする。



伏込み(埋め込み)時に4~5cmかぶせた土が、雨などで流されて菌木の頭が見えている。高畝時は特に注意。

2. 伏込み場所が、草だらけにならないよう草取りをして、ある程度の風通しが良いようにする。
(ただし、草取りの時期に注意する。例年発生時期は、8月末~9月中旬なので7月末までに)

3. つる草、ヨモギなどの背高い草などは、梅雨頃までに抜取って下さい。

(夏などに根の深い草の草取りを行うと、地表まで伸びてきた舞茸菌を壊す事があります。)



4. 近年温暖化などのより舞茸発生時期が遅れて草取り2回以上必要な場合、背高い草は抜取らずに邪魔な部分を茎部で切断し、短草は保水のために残して下さい。

5. 夏になり日差しが強くなり始めたら、遮光幕などで直射日光や西日等が、当たらないようにして下さい。林などに伏込み時は不用です。

(地表まで伸びた舞茸菌が死んだり、発生しても奇形になる可能性があります。)



6. 夏に雨が少なく表面(土)が乾くような時は、適度に散水をして下さい。

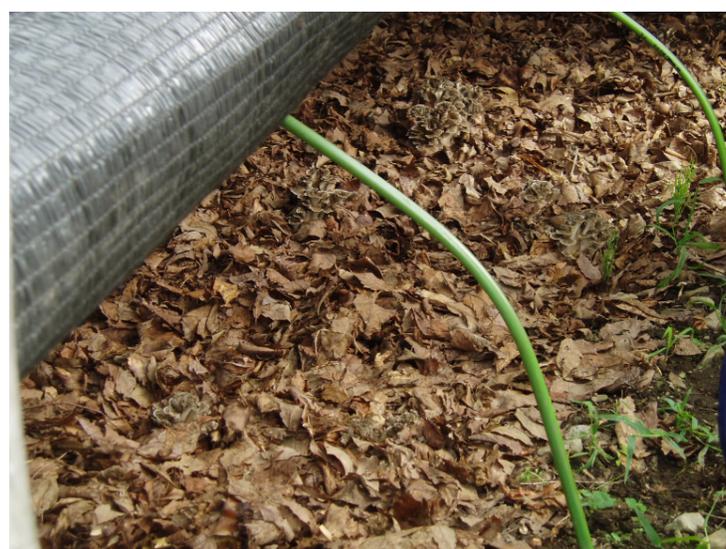
(ただし、水をかけ過ぎるとバクテリアなどが繁殖しますので注意して下さい。)

(発芽後に湯水気味の場合、きのこへの直接散水は厳禁。周りの土に散水するように心がけて下さい。)

7. 舞茸の芽が出てきたら、触らないこと。(刺激を受けて、成長が止まる可能性があります。)



8. 土ハネなどの少ない舞茸を収穫するには、芽の周りに木の葉などを敷いて下さい。
また広葉樹の乾いた木の葉を2~5cm程度かけておくと、足の長い綺麗な舞茸を収穫が出来ます。



9. 収穫時期に降雨予想される場合は、多少早くても収穫した方が良い。
または、雨よけをすると雨天時収穫でも雨きのこにならずに日持ちします。

